

# 株式会社エイバンバ

## ひとの住まい方を変える、楽しいゼロエネルギーハウス

エネルギー革命は、産業だけでなく、住宅や人の暮らしにまで影響を及ぼしている。

「エネルギーと住まいの関係を突き詰めたら、住宅設計だけでなく、住まい方についても組み替えるべきではないかと考えたのです」

建築設計事務所、株式会社エイバンバの代表取締役社長、番場俊宏氏はそんな新しい住まい方を考える建築家だ。これまで横浜を中心に数々の住宅、公共施設等を手がけてきた。かつて所属していた小泉アトリエでは、象の鼻パークの設計にも関わった。



なかでも新時代を予感させる住宅といえるのが、オフグリッドハウスだ。栄港建設とのコラボレーションによる、電力自給型の省エネ住宅は、いわゆる「ゼロエネルギー住宅」を目指したもの。太陽光発電などの自然エネルギーの有効活用と、電力消費を抑えたユニークな暮らし方で、都市インフラからの電気、ガスに頼らない、エネルギーの自産自消を実現している。

## 創エネ、断熱性能に配慮した住宅設計



システム系統図

「太陽光発電だけでは一般的な4人家族の電力消費を賄うことはできません。他にもさまざまなエネルギー源を活用します。住宅設計においては、断熱性能や省エネにも配慮していますが、何より大事にしたのはそこに住む人が、どんな暮らしをしたいか？ ということです。設計にあたっては、施主さんとじっくりライフスタイルについて話し合いました」

旭区小高町のオフグリッドハウスでは、そのような施主との話し合いの中で、住まい手が窓に関わり、積極的に手を加えていくオフグリッドハウスを目指すこととしました。

本工事でしかできないような例えば建築後では難しい基礎躯体の断熱材、屋根の断熱材などはしっかりと取り入れ、その他の部分は将来、衣服を着せ替えるようにプラスしていける計画としました。

また、蓄電池は、ゴルフカートの再生バッテリーを使用し、充電量が少なくなったら年に一度、ITE アクチベーターを適量入れ、再生を繰り返しながら使用していきます。その他、ソーラーパネルは将来の増設が可能なように、屋根面積を十分に確保していることや、冷房に井戸水のヒートポンプを使用できるように、井戸はライフスタイルに合わせたカスタマイズできるオフグリッドハウスとしています。

## 省エネの住まい方を楽しむ、ゆとりが大事

「ユニークなのは照明で、家族がそれぞれ一人一個、LED 照明を持って暮らしています。照明を持って移動することで、ムダな電気を使わないようにしているのです。ご飯を食べる時は、大きなテーブルに4人分の照明が集まるわけです。そんなふうに住まい方を楽しむ遊び心がオフグリッドハウスを成功させているといえるでしょう。理想の暮らしを実現させるためには、便利さを求めるのではなく“これで十分”とライフスタイルを変えることができるかどうか。こうした家づくりも、住む方とじっくり話し合えるからこそ、生まれたものだと思います」

ゼロエネルギーハウスへの注目が高まるなか、ライフスタイルのデザインまで含めた、新しい住まいを提供する番場氏。環境に配慮した家は、これからの暮らし方を私たちに投げかける。

## 会社概要

abanba (株式会社エイバンバ)

代表取締役社長：番場俊宏

本社：横浜市中区弁天通 6-85 宇徳ビル 404

TEL：045-226-5422 FAX：045-226-5423

設立：2010年3月

事業内容：住宅、ビル、公共施設等の設計

URL：<http://abanba.net/>